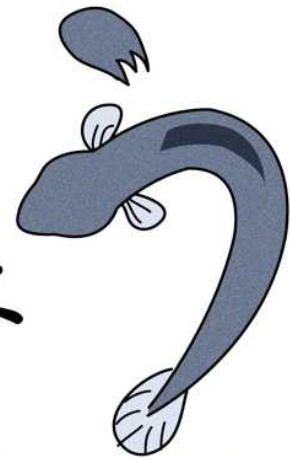


対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学5年 「環境を守るわたしたち」
教科書	東京書籍等
掲載日	2019.8.9 朝刊 東海本社版 14面

絶滅危惧種のニホンウナギの資源回復を図ろうと、浜名湖の若手養鰻家らが七、八両日、ウナギの遡上を助ける芝マットの魚道を、浜松市北区引佐町内の井伊谷川の堰や落差工に設置した。関係者によると、全国的に珍しい取り組みで、県内では初。効果を検証し、全国に広めたい考えだ。

芝マットは、ホームセンターなどで手に入る厚さ二センチ、縦横三十センチのプラスチック製。縦に五、六枚をつなげて、堰の高さ一・五メートルほどの段差の部分に金具で取り付けた。

都田川水系の井伊谷川には、上流にウナギがすみやすい岩場があり、水生昆虫などの餌も豊富とされる。しかし、上流から下流にかけて堰や落差工があり、



芝マット 期待しよ

ウナギが上りにくい環境となっているため、三方所に芝マットの魚道を二つずつ設置した。

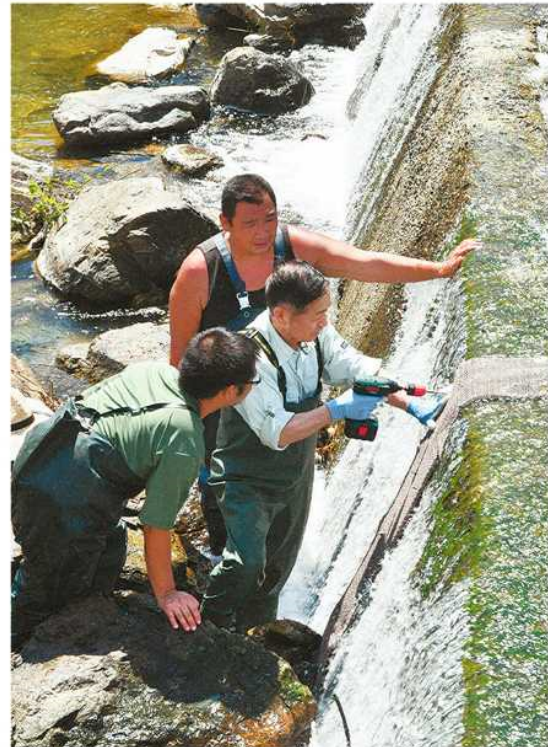
若手養鰻家をつくる青鰻会が中心となり、県や浜松市、都田川漁協などと連携して手掛けた。もともとは、鹿児島県水産技術開発センターが開発した方法。同センターの実証実験で、芝マットの突起部分に体を預けながら、ウナギが魚道として遡上する効果があった。

海から浜名湖に戻ってきたシラスウナギは、春から夏にかけて成長しながら川を上る。青鰻会の古橋知樹会長（三〇）同市西区Ⅱは「天然ウナギが増えることを願いたい」と語る。効果については、県水産技術研究所浜名湖分場が検証する。鈴木基生（きよ）上席研究員は「河川の人工物がウナギの遡上を阻害しているため、芝マットの効果に期待したい」と語る。

（篠塚辰徳）

遡上お助け@浜松

養鰻家ら川に魚道設置



井伊谷川の堰に芝マットを設置する養鰻関係者ら＝浜松市北区引佐町で

問 1：芝マットは、どんな所に取り付けましたか。

問 2：芝マットは、何のために取り付けましたか。

発展：野生動物のために配慮している物や施設を書きましょう。

【活用にあたって】

本資料は、絶滅危惧種のニホンウナギの資源回復のために、浜名湖の若手養鰻家が、山間部の川に芝マットを設置した記事。環境保護は、事象が問題になっている地域だけでなく、より広い地域が深く関わっていることを意識させることが大切。

本資料は、社会科に限らず、理科、総合的な学習の時間、道徳などの指導にも生かすことができる。

解答例

問 1 : 堰の高さ 1.5 m ほどの段差の部分。

問 2 : ウナギの遡上を助ける。

発展 : 遠州灘海岸の道路の街路灯が、産卵のため上陸するアカウミガメのじゃまにならないように、浜を照らさないように工夫した。